

平成30年度

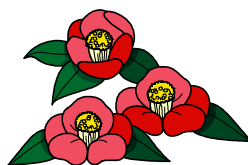
中南の社会教育

子ども・担当者のため
中南教育事務所
非営利・地域の応援隊

中南管内社会教育の推進に向けて!

4月1日、吉川満新所長が着任し、新体制で平成30年度の業務を開始しました。今年度も市町村の皆様との連携を密にしながら、生涯学習・社会教育の振興に総力を挙げて取り組みたいと考えております。今年度の中南教育事務所社会教育関係スタッフは以下のとおりです。よろしくお願いいたします。

所長	吉川	満
次長	松山	正孝
教育課長	鎌田	猛
主任社会教育主事	古川	和生
社会教育主事	鳴海	博史



吉川 満 所長

※ 教育委員会訪問では、主任指導主事及び指導主事が同行します。

管内社会教育関係課長・公民館長及び担当者会議

5月8日、平川市文化センターを会場に、管内社会教育関係課長・公民館長及び担当者会議を実施しました。所長のあいさつに続いて主任社会教育主事が「中南の社会教育行政の方針と重点」について説明した後、社会教育主事が「県が実施する各種事業の要点と各種表彰制度」について連絡しました。その後、小館孝浩学校地域連携推進監から「地域のチカラで家庭を支える仕組みづくり」と題し講話していただきました。講話では、「家庭教育支援の推進方策に関する検討委員会報告書」、「家庭教育支援チーム」、「地域学校協働活動」等の国の動向や、本年度の本県の重点事業である「子どもたちの成長を支える『地域のチカラ結集』推進事業」について分かりやすく解説していただき、参加者からは「家庭教育の大切さと、家庭教育の施策を再確認することができました。」等の感想が寄せられ好評を博しました。



小館 孝浩 推進監

本年度の中南管内の主な行事は以下のとおりです。
また、本年度の重点及び施策の柱は3ページに掲載しています。

- 4月21日(土) スポーツ推進委員地区研修会
- 7月 3日(火) 放課後子ども総合プラン指導員等研修会(前期)
- 8月 8日(水) 学校と地域を結ぶ窓口となる教職員研修
- 9月 6日(木) 地域学校協働活動推進員等養成講座
- 9月12日(水) 放課後子ども総合プラン指導員等研修会(後期)
- 10月~11月 社会教育の教育委員会訪問



Index

- 研修会のようなす
 - ◎スポーツ推進委員研修会
 - ◎地域学校協働活動推進員等研修
 - 2
- スキルアップ
 - ◎ 「施策の柱」を設定! 3
- ネットワーク
 - ◎ 事業紹介 4
 - ・ 「ながしこ」合同運行
 - ・ 専門大学
 - ・ 市民記者養成講座

現役オリンピック選手から学ぶ

カヌーに夢をのせて！

平成30年度スポーツ推進委員中弘南黒平地区研修会



4月21日（土）西目屋村中央公民館を会場としてスポーツ推進委員地区研修会が行われました。午前、カヌー競技日本代表である矢澤一輝氏により「カヌーに夢をのせて」のテーマで講義が行われました。カヌーを始めたきっかけや、北京、ロンドン及びリオデジャネイロオリンピックのそれぞれの大会に出場したときの様子、西目屋村に移住した理由等について、大会に出場した際の映像やエピソードも交えながらの大変貴重な内容のお話を聞くことができました。午後は、目



屋溪トレッキングが行われました。西目屋村スポーツ推進委員会会長の三上金一氏から、目屋溪や乳楳ヶ滝、見返り坂について、分かりやすい解説があり、参加者は、和やかな雰囲気の中で、トレッキングを楽しみ交流することができました。さらに、矢澤氏が実際にカヌーの練習をする様子を見学し、現役オリンピック選手のパドルさばきの見事さに、参加者は万雷の拍手を送っていました。

地域と学校の協働に向けて！

5月25日（金）青森県総合社会教育センターを会場として地域学校協働活動推進員等研修が行われました。宇都宮大学教授の佐々木英和氏により「地域と学校が協働して子どもを育てるために～コーディネーターの役割について～」のテーマで講義・演習が行われました。講義では教育概念の再定義から始まり、「教えないという手段をとる教育がありうる。」ことやファシリテーションの成功のためのサンマ（三つの間「時間」「空間」「仲間」）等、社会教育推進のためのヒントがたくさん研修会でした。「人とつながりでも最も大切なことは尊びあいです。学校だけでなく、地域も含めてみんなで互いに尊びあう場をつくっていきましょう。」という言葉で締めくくられました。



平成30年度の重点として

スキルアップ

青森県教育委員会「施策の柱」を設定！

教育行政における重要課題のうち、特定のテーマを当該年度の「施策の柱」として設定することにより、選択と集中による施策の重点化を図りながら、各地域の教育関係者との共同歩調を実現するとともに、教育施策を力強くアピールし推進します。

1 学ぶ意欲や主体的に探究する力の向上

将来の予測が難しい社会の中でも、伝統や文化に立脚した広い視野をもち、志高く未来を創り出していくために必要な資質・能力を身に付けた子どもたちを育てることが求められています。

このため、よりきめ細かな教育環境を整備しつつ、基礎的な知識・技能の習得とともに、主体的・対話的で深い学びの実践を通して、意欲的に学ぶ姿勢や、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的に探究する力、発信する力の向上等に取り組みます。

主な事業

新規：外部人材活用によるスクールサポートスタッフ配置事業

継続：新しい時代を主体的に切り拓く小・中学生育成支援事業

継続：学校図書館活動支援事業

継続：小・中学校英語力向上推進事業

継続：あおもりっ子育てプラン21

2 子どもを守り支え安心して学べる教育環境づくり

経済的な事情などに関わらず、学ぶ意思のある子どもたちが必要な教育の機会を得ることができる環境づくりを進めるとともに、いじめや不登校など問題行動への対策、特別な教育ニーズのある児童生徒の学びと就労への支援の充実を通じて、子どもを守り支え安心して学べる教育環境を整備する必要があります。

このため、高校生に対する修学支援、小・中・高等学校におけるいじめ等の対策、特別支援教育の充実等に取り組みます。

主な事業

新規：みんなで考えるいじめ防止対策推進事業

継続：いじめ防止キャンペーン推進事業

拡充：スクールソーシャルワーカー配置事業

拡充：スクールカウンセラー配置・派遣事業

3 地域の多様な教育資源の活用による地方創生

少子高齢化と人口減少の進展に伴い地域活力の衰退が懸念される中、個性豊かで魅力と活力ある地域を創出し維持していくためには、学校・家庭・地域の連携・協働した仕組みの下で多様な教育資源を戦略的に活用し、ふるさと青森の地で活躍する人財の育成や、幼少期からの生活習慣の好循環とスポーツによる「健康長寿県」づくりの推進、かけがえのない文化財の保存・活用による次代への着実な継承が求められています。

このため、児童生徒の将来の県内定着を図るための学校と地域企業等のネットワークの強化や、高等学校におけるキャリア教育の充実に取り組むとともに、高校生が中心となって地域の魅力を発信する取組や、学校・家庭・地域の連携による教育活動等を推進します。

また、子どもの運動・栄養・休養を総合的に捉えた生活習慣の改善や、国民体育大会の本県開催に向けた取組を進めます。

さらに、三内丸山遺跡の適切な保存と積極的な活用・情報発信とともに、郷土を知り、魅力を発信できる人財の育成に取り組みます。

主な事業

新規：学校における運動部活動・スポーツ活動推進事業

継続：スポーツでいきいき！生涯健康力アップ事業

新規：子どもたちの成長を支える「地域のチカラ結集」推進事業

新規：子どもの健康づくり体制支援事業

事業紹介

中南教育事務所では、各市町村の事業を訪問し、情報の共有及びネットワークづくりを支援しています。今回は中南地方社会教育委員連絡協議会総会で発表された3事業を紹介します。

ネットワーク

ながしこ合同運行 (藤崎町)



伝統の七夕行事「ながしこ」は大正12年、藤崎町の町制施行を記念し当時の芝居好きな人達のアイデアで生まれたと伝えられています。昔話などの一場面をテーマに、趣向を凝らして作られた山車が町内を練り歩きます。ねぶたの終わる頃、ねぶたとは別の山車をつくり仮装した人が「生き人形」と称して山車に乗り町内を練り歩きます。平成24年には参加団体が3団体まで減少し存続が危ぶまれていましたが、翌年に「検討委員会」を組織し「開催日を休日へと変更」「運行ルートの変更」「イベントの実施」「多様な参加形態」等様々な変更点を加え現在に至っています。



ここが魅力

山車人気投票券と抽選券のセットを運行ルート沿道で配付し、イベントの最後には大抽選会を行います。今年も8月11日(土)13:00から藤崎町役場をメイン会場として開催されます。

暗門大学 (西目屋村)

暗門入会開講式



高齢者が生きがいと潤いのある生き生きした人生を送ることができるよう、地域での高齢者の社会参画を促進するための学習機会とすることを目的としています。村内在住、旧砂小瀬・川原平地区から弘前市内に移住された60歳以上の方を対象とし、申込者は21名(男性3名、女性18名)です。開講式では、最高齢93歳の参加者が「入学のことば」を述べました。体験、趣味、健康運



動教室、ボランティア、見学等、全13講座が開催され1年を通して様々な体験活動を行いました。

ここが魅力

社会福祉協議会、児童クラブ、小学校、保育園と連携した講座を開催することにより活動に広がりをもたせるとともに、異年齢が交流する貴重な機会となっています。余談ですが、西目屋村中央公民館には世界一の大きさの「こぎん刺し」があります。

市民記者養成講座 (平川市)

市民自ら地域の情報を「収集、編集、発信」することで、地域に眠る素材に「価値の再発見」を見出すために「市民記者」を育成し、自らが取材、編集、発信できるような「市民記者」を育成する講座です。講師は地域新聞「いつ・もの・こと目屋新聞」編集長である工藤健さんです。20代~60代までの14名の参加がありました。講座は開講式に始まり、平成29年度は全9回実施しました。閉校式では、記事を書いた人を市民記者として認定しました。



ここが魅力

平成30年度は、記事をホームページに掲載し、それを年に2回新聞にまとめ、市内全世帯に配付します。市民目線での記事となっています。